

天愚孔平伝 一 : 資料紹介

中野, 三敏
九州大学文学部教授

<https://doi.org/10.15017/12019>

出版情報 : 語文研究. 57, pp.33-50, 1984-06-03. 九州大学国語国文学会
バージョン :
権利関係 :

天愚孔平伝 一

— 資料紹介 —

天愚孔平こと萩野信敏は奇人である。その奇人であることの次第は、早くは馬琴の聞き書きである孔平自伝（文政末年頃成「兎園小説別集」所収）から、最も新らしくは佐野正己氏の「天愚孔平（萩野喜内）とその周辺」（昭和56年2月刊「松江藩学芸史の研究」第六章第五節）迄、自撰・他撰いりまじって殆んど十指に余るその略伝・逸話・奇行集の類により天下に喧伝される所。敢て冗言を弄する迄もない。然してその大半は天愚先生自ら演じてみせた鳴物入りの奇行を伝えるには十分であっても、その心中に今一步立ち入った考察を加えて評価したものといえば、その数寥寥。筆者の知る限りにおいて、辛うじて大槻如電撰の「大槻警水」（明治三十五年・博文館版）中に誌された一節と、森銑三翁が、その撰文「天愚孔平」〔雑誌「慧星」昭和四年五月号〕に「よしの冊子」中の一節をひいてふと洩らされた「路に落ちてゐる草鞋や馬の脊を拾って来ては、繕うて自分で履いたといふだけでは、しみたれた爺さんといふか思われぬが、江戸に交易所を建てて、物價を平均するなどといふことを考へてゐたといふは、それだけでも敬服に価するものがあるやうである」という御感想の二則に過ぎない。如電翁はその伝えら

中 野 三 敏

れる御人柄からみても、如何にも天愚先生とは馬の合いそうな御方、その評価も聊か我田引水のきらい無しとはしない所だろうが、森翁のは、一方で天愚の余りの大法螺に辟易され乍らではあるが、その人物評価に関する御炯眼は軽々には見逃せない所。その辺りを手がかりに筆者なりの天愚孔平伝を企てたのだが、この人物の露悪家ぶりは中々徹底していて、おいそれと世評をくつがえす所迄は辿りつけない。先に触れた「兎園小説別集」所収の自伝にも明白な通り、この人の奇人ぶりは自ら意識して行なうものであって、その意味で完璧な奇行であり、もてはやされるには恰好の材料を自ら提供している。確固たる世評の生ずる所以である。しかし自ら意識して行なうものである以上は、明らかに自らの奇行を眺める冷めたもう一人の天愚先生が存在する筈であり、吾等はそこがしりたいたい。世評に技癢を感じる所以である。

一体この人の伝に関する限り、従来の諸伝は余りにもその奇行逸話を報ずるに重みがかかり過ぎ、この人の実人生をありの俎に見るべき原資料が報せられること少なきに過ぎた。この面で、筆者に満足のゆく報告は、これまた僅々二則のみ。その一は早く高橋龍雄氏

稿の「天愚孔平の伝」(「國學院雜誌」第21卷3号)に紹介された、出雲藩の「烈士録」中の萩野喜内の項の全文、その二は近く北野克翁御紹介の「天愚孔平書翰」(雜誌「三古会伝記」第四輯)である。筆者も今はまずその驥尾に付して、従来未紹介のその種の資料を、主として天愚自身の撰文の中から選んで紹介し、天愚伝の皮切りとしたい。今回は取り敢えず以下の三点を示す。

(一) 泰宗寺墓域墓碑文

(二) 「鳩谷先生文集抄」所収「出雲国比下大夫村上君行状」

(三) 「鳩勾当伝」

解題

(一)は東京駒込の泰宗寺に現存する萩野家一族の墓碑群の内から、天愚自身の撰文になる碑文四則、宇佐見瀧水撰文による天愚の父復堂碑文、族人藤山玄春撰文の天愚墓碑文等、十三基の銘文を写したものである。碑面の剝落等によって読みとり得ない字も多く、誤読も多々存する事と思う。より正確を期する向きは実見せられ度い。この碑文の何がしかを見ることによって吾等は天愚一族の血縁の実際と、またあるものからは思いがけず情の人としての天愚の姿をかいま見ることもなる。

尚天愚の祖父萩野玄玖は本来藤山姓で萩野家へ婿入りした人であり、その藤山家の墓所は深川専念寺で、そちらにも天愚撰文になる墓碑がある筈である。後日の調査を期したい。

(二)は天愚の文集の一部である。天愚文集は板になったもの三種と写本一種を見ることが出来る。が、これ迄何故か言及されたことがない。板本は何れも半紙本一冊、外題を欠くが、内題はそ

れぞれ「鳩谷先生文集抄初刻」「鳩谷先生文集抄三刻」「鳩谷先生外集抄三刻」とある。写本は板本三部と内容殆んど重複するが、なお板本に見えぬものも若干を含む。右四本の内容の異同・先後等については後稿にまわし、今回翻字するのは板本「鳩谷先生文集抄三刻」所収の一文である。貧賤から身を起し、出雲本藩の下大夫に立身した村上舎喜なるものの行状を、その安永六年十一月没後に、子息某より頼まれて撰文したもので、子貢の富を願ひ、蘇秦の智謀勇弁に擬される人村上氏の独特の金錢哲学を縷々詳述して、自らの経済説の生き証人として採りあげようというもの。天愚の経世論として聞くべき内容のものである。

(三)は鳩保己一が未だ三十二才の時、勾当位にあった頃、早くもその異才ぶりに着目して、その略伝を綴ったもので、恐らく保己一伝としては最初のもの。従来は森銑三翁が「物語鳩保己一」の中で、本書の存在に軽く触れられたのみでその全容は未紹介のものである。伝本所見二種あり、その一は九州大学附属図書館音無文庫蔵本で大本写本一冊、墨付十丁のもの。表紙に「鳩勾当伝」と打付書。内題も同じ。今一つは関西大学図書館蔵、稿本「事実文編」雑編巻七所収のもの。従来のは活字本には未収。こちらは「鳩檢校伝」とあって、檢校位を得たのちに写されたもの。内容も九大本は本伝に入る前に数丁にわたって一種の日本盲人史とでも称すべき天愚の所論があり、事実文編本にはその部分が凡て削られているのは、前述した如く保己一が檢校位を得た後、書写者が檢校伝として、よりすっきりとした形に整えようという意図から生じた異同であろう。翻字は九大本

を底本とし、本学岡村繁教授の御手を煩わして句讀訓点を施して戴き、その事実文編本との異同は本文当該個所の右傍に小字で適宜注記した。因みに、天愚の文章の評を岡村教授に求めたところ、一言「下手」と断じられた。

翻字

(一) 泰宗寺墓域墓碑文

○ 信敏先祖合同墓碑

寛文八戊申天

圓通院太玄宗白居士

十月二十六日

同会

各靈

寛文十三癸丑天

桂樹院久室栄昌大姉

二月十九日

正保四年己亥天十一月十九日

雪嶺梅先君

直永善入尼

慶安二年己丑十一月二十九日

寛永十五年戊寅三月二十九日

天室存長君

湖月榮珊君

寛永十年辛丑□□□□□□

右六名合三小靈識以銅環其囚如碑面天明辛丑改葬于善性君大棺東側利室君棺西北隅出雲候人東都孔平信敏菽野喜内識

○ 菽野復堂墓碑

復堂菽野府君墓

先生諱珉字文石號復堂東都人菽野氏姓平本氏草野高祖稱豊後守曾祖称大和祖父諱房重嗣藤山氏考諱玖字伯瓊妣菽野氏三氏皆出平惟盛後外祖国民無後伯瓊嗣菽野氏自外曾祖諱竹業医至先生襲号春庵伯瓊以医仕於雲藩賜奉五十口食世系事迹詳于行状云先公時先生年二十八為後宮侍医奉業得驗多累加奉至三十口食先公愛其恭謙有才幹常奉左右比侍後之臣有事必言多見採用後從行於雲多所裨補甚見昵時先公欲下新令先生密切諫忤旨遂廢及今公生命侍於左右賜奉如故伯瓊告老先生嗣賜考傳罷故傳享保辛亥先公薨今公立年幼太夫人臨朝每事問先生竊有裨補先生以為治国無若學日教公課左右自是藩士駸駸向化延享乙丑公始就困先生從享會夏大水諸民沈溺有司莫以告先生侍公曰大水蕩蕩城外舟而行蓋往觀焉公乃出見其號呼始大驚先生令左右進行厨公慘然不能舉筋先生曰一筋不能舉能盡厨下如堆米乎公曰吾知子所言矣輒命吏發廩領賜水退先生曰雖患也大矣豈能支於後乎於是公躬自節用恤民賑貨公謂先生裨於政治將大用之先生辭因罷廩傳賜田祿二百五十石使子孫勿與医業丁卯又從行於雲夏旱先生進言公感悟命先生為祝文齋戒沐浴以禱三日此日大雨民喜以為精誠所致秋先生疾公慮妻子在東都保護多闕遣命婦養子家加賜田祿五十石使医從行藩法自非邦相疾婦無令医從故人皆榮之□何疾愈及世子生又侍之性温厚恭謹無与比享其在家也事父母孝順颜色婉容未嘗有違退公問安及侍疾居喪情行無所不至其在公也無責而思補君過有功而唯恐人知自公至大夫士重其謹慎見先生必改容其医人也論方

必確品物必正無賤賤應請輒往自謂治多則心□常不過五人矣自幼好博涉群書最精岐黃自考伯瓊師官醫數原泰享君考室於其弟中而居享泰享君及其男梅塢君奉公治療殆無暇日其門人皆從先生學初專事診投者皆挾書策稽古法蓋先生之化云 德廟時梅塢君為侍醫語次及先生學業恭謹 德廟使梅塢君問醫院疑議稱 旨密使梅塢君佗命欲賜學歲時朝謁先生以陪臣無意于朝廷辭享配宮田氏生一男名信敏先生七十致仕信敏嗣賜祿如旧別賜先生優養田四十石時謁見尊重甚至明和丁亥夏罹疾秋漸篤公聞疾劇大驚使二医視疾小漸數人數報動靜又夫人世子使左右問疾親□故旧門人交錯相□先生雖疾革應接不□禮容九月十二日歿享年七十有八公慟哭曰孤之幼也□之□也教之臨民也□獻替大臣不若細則夫人子女之疾疾無不得其力也已□夫藩中莫不歎惜親戚故旧門人感恩而哭葬下谷泰宗寺先塋銘曰愛敬謙讓□善新生溫厚恭謹惟德惟行揚人之善若已有之掩人之惡若己不知身事節儉求而能□□威厲仰以寧處軒岐世業技誰出右□書博通能教善誘孝乎惟孝色養匪□□定省愛日斯邁侍四夫人歷事之君一心竭力寒暑勤動雲土大水下民艱飢先生一言□□賑施旱□又言公悟禱祀大雨忽至庶民大喜先生嘗曰知識不墜一事一迂教言數用匪□菜餌隨事獨賢医及國家先生有享明和丁亥仲冬雲藩宇惠謹識東都河保壽書孝子信敏立

㊦母(宮田氏)墓碑

天明元年辛丑九月二十八日朔
孔母宮田孺人墓
善性院桂室寿光大姉萩野大家

先妣宮田氏諱美保享年八十有二大陶棺葬內有誌石是桓武帝曾孫高望王源公四雄平致賴三浦大介平義明忠殉宮田貞元後津候侍医自感君之女人甫九歲「津藩夫人聞其孝順召置左右恭謹無比居十四年夫人薨辭而家居自感君好學擇婿聞先君仲尼之孫 東邦独有吾族家教猶尚不衰即日介而請婚享保壬寅婦先考矣其為兒為臣為姊為妹為婦為母為姑為祖也行義皆可甚觀碑約不納無能述享感天明元年仲冬晦日孝子出雲侯人東都孔平信敏萩野喜內泣血謹識」

㊦信敏墓(萩野國民・同妻阿武久合葬)

享保十六辛亥年

㊦大極院一陽春菴居士

六月八日 萩野春菴國民

享保十乙巳年

㊦寿松院高顏理性大姉

八月二十日齋藤氏阿武久

鳩谷天愚公 (花押)

鳩谷天愚公天資英才有異見世傳源變真理字著書若干世系事跡多可誌者墓碑約不容文立題名碑於祠堂之側兼記其狀如世系畧存于考復堂君墓及深川惠然寺祖考長水君墓藤山氏先塋公諱信敏字求之氏萩野稱喜內出雲侯人也享保二丁酉年五月二十九日生文化十四丁丑年四月一日歿享年百有一僧謚緣山院鳩谷求敏居士配村田氏生三男六女貞鏡院嫁東條氏女淨香幼死男瞬夕孺女智秋孺女嘉代嫁天野氏々

氏從衛騎郎女淨心院嫁武州八王子商號伊丹屋男信龍公之嗣女美津嫁出雲侍医加藤氏男信鳳冒出雲外山氏諸子各有子孫甚多有玄孫耳孫不見其面者銘曰令德積善維之佳慶延年久視諸孫穰々 族人出雲藤山玄春道豐謹誌

「殷契至主癸十三公成湯至帝乙三十王微子至梁紇卅八公文宣王孔子仲尼父聖孫六十三世諸公

草野備中守信胤公葛原王以下諸先公杉原伯耆守家次公神医救野富春菴翁右九條皆此諸先祖」(「」内現存せず。但し孝原東学氏稿「関東の碑碣に見えたる天愚孔平」(法書会編「書苑」第九卷第十号)に掲載の天愚墓碑拓本写真に拠る)

⑤ 信敏妻奈遠(村田氏)玄孫霜顔童女墓

文政七甲申年 諱奈遠

湘江院餐霞仙姑大姉

三月廿一日歿年八十八

先妣湘江院者緜山院配相州高座郡一宮村人父村田八郎兵衛僧諡寬照院其孫彦次其彦伊兵衛伊今莊矣母相州中新田遠武末村遠藤氏僧諡見是妙臺其兄善左衛門有二子長統其家次為春韶僧諡湘山院藤山玄讓養為子讓者緜山院考東郊君弟藤山氏仕吾藩讓為祖詔生玄春春今盛矣先妣有三男五女悉刻緜山院碑纔書親因以欲子孫不疎遠 雲藩孝子萩野彦一郎信龍伯麟謹志

文政十亥五月生文政十三寅

◇ 霜顔禪童女

十月二十日死萩野信近之女也

⑥ 信敏嫡子信龍夫婦墓碑(彦一郎) 奈遠

慈涼院妙觀慧曇大□

碧空院孤嚴道舟居□

心鐘院□□□□□□

先考 碧空君諱信龍字伯鱗号關里姓孔平俗稱萩野彦一郎緜山君嗣仕雲藩為從衛騎將母湘江君先配慈涼君生本空童女後配心鏡君即吾母也 君明和七庚寅二月廿一日生文政戊子十一月十八日歿僧諡碧空院孤嚴道舟居士

孝子萩野謙藏信近謹誌

孔婦洞氏諱奈遠因幡侯邸臣洞尚春稱鍋次郎仲姉天明四年十二月十日生年甫十九適歸於孔平君君名信龍字伯鱗稱萩野彦一郎出雲因邸人也居五年貞順無比文化三年六月十八日歿享年二十三僧諡慈涼院妙觀慧曇大姉文化三年七月晦

⑦ 信敏二女(阿秀)墓碑

安永三年甲午夏王六月五日丁亥朔

淨香智蓮大姉墓

阿秀年甫十四萩野喜内第二女

東都鳩谷平先生悲且哭曰女秀之生以宝曆十一年辛巳六月十八日乙酉時長女韻散甫三才其死也以安永三年甲午六月五日丁亥亦時有弟妹四人女薰林壯容雲暎男鏡兒或超走而戲或呱呱而啼且太孺人在堂孀然老矣秀也雖弱其斑禰取媚友愛尽情各得其所又侍藩夫人女公子肅々謹矣皆有如成人揮毫誦說裁縫刺繡主中饋御家婢亦皆或過成人父母倚以安享平生無恙我不憂其疾今也俄然病熱三日飲食不下口不能語而亡父信敏母村田氏暨然驚慘然哭德慈養不及即葬于下谷泰宗寺從先塋其為人孩而声和幼而氣柔生來十四年濟茂端明癡然殊異妄謂賢以事舅姑可為良婦何知不及弃去才姑改名盈易云天道虧盈豈為讖邪婉婉音容如視如聽奄忽逝矣命也奈何世系既具于先大人碑我將叙汝事悲哭不能文也噫安永三年甲午八月五日東都平信敏建細井庸書

④復堂母（右龜）墓碑

⑤玉清院大姉

先妣菽野大孀人諱龜父名□氏母齋藤氏寬文十□□戊六月三日戊午生于武城北白山里□□□配于長水府君自嫁及老甚得府君之志教子能成其材親疎小大□□□應接皆有節享享保二十年乙卯二月十六日丁巳病終于家年□□十有六凡生二男五女越三□□已未葬于武□下谷法輪山泰宗寺西界東向謚玉清院明臺□□大姉云嗚呼哀哉

孝子菽野珉泣血稽□謹誌

⑥復堂妹（阿春）墓碑

瞬夕禪童子
信受院獻室龍珠大姉
知秋禪童女

信受院生名阿春□汲古齋玄玖母菽野春菴嫡女玄玖本氏藤山有故因舅家氏今稱菽野其第七女也配小川某生一男一女享保十七壬子年十月廿一日病歿享年二十四葬于武州淺草之傍下谷法輪山泰宗寺
生母龜立

⑦寄世墓

寬永十八辛丑十一月廿六日

湖月榮珊大姉

天室存長居士

寬永十五戊丑三月二十九日

寬永□□□□

金峯院傑山善□居士

十月初一日

寬政十年年

淨心院見蒼妙巖大姉

四月十五日

文化三丙寅年

本空童女

六月十八日

○萩野梅先

享保四己亥天

雪嶺梅先居士

十一月十九日

萩野梅先塚

○杵浦忠任

杵浦氏忠任墓

義照院寛月錦露童子

宝永七庚寅八月二十九日逝

⑤

徹霜禪定門 宝曆七年
十二月九日

(二)出雲國比下大夫村上君行狀

出雲國比下大夫村上君行狀鳩谷孔平
信敏真撰

余夙憤ニ古道ノ之衰ニ。欲レ反ニ百家衆技ノ之正ニ也久矣。試持ニ至善情勢ノ之説ヲ。而訪ニ之ヲ於當世學士ニ。無レ一能得ニ其真ニ者上。乃不レ得レ已。著ニ經傳矯救ニ弊五史ニ秦漢隋唐道德經說名物諸真。及レ解紛廓如關塞諸編一矣。猶尚欲レ見ニ其人一也。自謂學

士大夫則已矣。唯得レ見ニ其得レ真者一斯可矣。廣求ニ之於百家衆技ノ之土。巧宦經紀之倫ニ。其能得ニ真於其所一。亦復希焉。晚獨聞ニ吾藩村上君之業一。未レ可レ四嘗ニ三慨然一西望。遙想ニ見ニ其爲レ人一也。君少學ニ讀書揮毫刀法射法騎法和歌圍碁象棋茶軌彈爭ニ。皆薄ニ時師一。而各自特達。窮士而三起ニ素封一之富。微臣而數幹ニ藩國一之大役。匹夫而致ニ身比大夫一。自レ非ニ其能各得ニ其真一。何以能如レ此。東都山陰相距數千里。君則吾不レ得レ而見レ之矣。得レ聞ニ其詳者一斯可矣。亦慨然ニ西望一。竊下彼知ニ其說一者矣。今茲村上伯長例ニ從事於國邸一。余歎ニ其同姓一。叩ニ以ニ君事一。則其男也。乃洒然ニ不レ答一。示ニ以レ述曰。此冊也レ丁憂所レ狀。心志未定。姑便ニ於撰レ銘人一。故屬辭不レ擇。叙事無レ次。唯當レ見ニ其梗槩一也。幸脩ニ其辭一。使ニ其ノ事傳ニ於後一矣。余讀終業。乃脩ニ其辭一曰。君姓村上。本姓源。諱舍喜。稱ニ喜一郎一。小字丑之助。長更ニ三姓村竹稱源藏一。出雲國人。其先系ニ於村上帝一。子孫遂姓レ焉。世籍ニ三田隱岐州一。居于天野村。亦自氏レ焉。稱ニ助九郎一。子孫亦襲ニ其稱一。殖ニ貨不貲一。今尚列ニ于富戶籍一。其庶子某不レ知レ出自一。獨往移ニ于出雲一。復ニ村上氏一。祖君諱某。稱ニ治右衛門一。性忠信堅貞。嘗登ニ松江愛太子峰一。碧雲之裏。暗ニ叫喚曰一。治右衛門。爾負レ我而走。祖君曰。諾。有レ物託ニ背上一。耳下甚冷。狀ニ似ニ接ニ以ニ其鼻一。負而山行一。其物乃騰去。復叫喚曰。聊試ニ爾堅貞一耳。若人不レ信。則ニ以レ此爲レ信。隻硯雙屐。墜ニ於蒼空一。其不レ動如レ此。今尚傳ニ其硯屐一。人皆以

爲二天狗怪ニ笑。考諱舎員。稱「源助」。誠殺善ニ書數ヲ。爲二大夫小田切氏家臣。年四十九喪レ明。明年憤而自殺。定■
十二月二十三日也。妣丹羽氏生三男四女。伯

叔皆夭。長女二女適レ某。三女適レ細筭下士山田忠心稱新十郎。末女適レ上十早苗義房稱八郎。君其仲子也。君以二享保六年辛丑秋七月二十一日而生。十三年己酉。年甫九歲。

有二篤疾。尋愈。長而容貌嚴厲。身長六尺。左臉有二黑子。眼光發發如レ電。長嘯亮亮如レ雷。怒號最甚。世比之於古峽伯主源信玄。個儻剛毅。聰明俊拔。廣大敏疾。疏通知遠。

常有二四方之志。受ニ學於本村重助。用心過苦。幾至レ生レ疾。學ニ劬於大石一水。至ニ中極格。所謂新當流者也。學ニ茶軌於某。所謂遠州流者也。善ニ象棋。一國無レ敵。天下十

等。以充其「三等」。所謂象棋所者所レ論也。又揮毫如レ流。射騎和歌圍碁彈箏。皆各極ニ其趣。君嗣爲二室老。自恥其貧賤。欲下以ニ其所レ長致ニ身本朝。爲ニ青雲士。或遊ニ東都西京。爲ニ辭ニ大師。時妣老在レ堂。不レ得ニ遠遊。乃自擬下致ニ身於國朝之間。而罷上矣。自謂國朝新進之

遇。田祿千石極矣。若不レ能レ爲ニ千石。則自殖享ニ其富。尚不レ勝ニ於室老之微一乎。子貢廢者。國君抗禮。得レ勢而益彰。使ニ孔子名布ニ揚於天下。聖賢尚然。況當世之務。專在レ生レ財。自レ非レ致レ富。何志能成。不レ若ニ三大積レ財以成ニ其地一也。然而家無ニ儻石之儲。產無ニ一錢之贏。長

物什器悉斥賣。焦思苦レ身逐ニ機會。已有不レ忍レ人心。又必具ニ禮數。不レ貪レ利而財常足日長矣。君不レ知ニ筭術一。

出入不レ計ニ其數。唯心ニ計ニ其大度ニ耳。其利莫往不レ生。果如レ所ニ心計。無レ幾致ニ財巨萬。考ニ室於橫濱。邑多ニ富豪。君家相匹。自レ非レ能通ニ殖貨之眞。而心計虛行上。何能如レ此。寬延三年庚午冬十月。天隆公。將下建ニ泉府。與レ民通上レ財。時小田切尚足相レ國。上言曰。知レ子不レ如レ父。知レ臣無レ若レ君。侯能知任レ臣。故得レ建ニ此議。臣亦自知ニ吾臣。臣家有ニ外臣舍喜者。其殖ニ貨生レ財。國中無レ比焉。使ニ舍喜在レ朝。則此舉必成。其可ニ與謀レ始。非レ舍喜一則不可也。古人薦レ賢。不レ嫌ニ其子。何況家人。臣敢不レ避レ焉。公召レ君爲ニ府吏。趣ニ策ニ其方。君曉ニ民以レ利。勸各納ニ餘財。銀一千貫立奏。國鄙鄰邦。往往蟻

慕。愿ニ納數萬貫。早機交至。國用常足矣。泉府既建。殆乎傾ニ四方之財。民樂謳歌其姓名。凡銀錠有ニ數品。秤重千錢曰貫。奏納其品不レ一。合秤以定ニ其輕重。故曰貫也。冬十月公善ニ其能。進ニ班於家屬中士。所謂與力士者也。十一月。再賞ニ賜慶俸五十包。寶曆元年辛未春三月。命君致下造ニ松江大橋之賞上。君曉レ民納ニ千四萬錢。是時朝野未慣ニ於造橋之技。工匠備作。必毀ニ大坂人。故每造多置ニ有司。而致ニ其人於千里外。且此橋最大。故其費不賈也。二年壬申秋九月。賜ニ銀五錠。以賞ニ泉府紀綱成焉。建官有レ精。及曉納之勞。冬十一月轉ニ度支吏。三年癸酉秋八月。免レ官奉レ俸。特給ニ五口食糧。以擬ニ優養。君既爲ニ布衣。身無レ所レ業。退而就ニ郊外。トニ居於津田邑別莊。更起ニ宅於爽塏。大買レ田以宮レ之。華屋文屏。如ニ雉斯翼。行人引レ領觀望。猶尚未ニ以爲レ足。土木不レ

出入不レ計ニ其數。唯心ニ計ニ其大度ニ耳。其利莫往不レ生。果如レ所ニ心計。無レ幾致ニ財巨萬。考ニ室於橫濱。邑多ニ富豪。君家相匹。自レ非レ能通ニ殖貨之眞。而心計虛行上。何能如レ此。寬延三年庚午冬十月。天隆公。將下建ニ泉府。與レ民通上レ財。時小田切尚足相レ國。上言曰。知レ子不レ如レ父。知レ臣無レ若レ君。侯能知任レ臣。故得レ建ニ此議。臣亦自知ニ吾臣。臣家有ニ外臣舍喜者。其殖ニ貨生レ財。國中無レ比焉。使ニ舍喜在レ朝。則此舉必成。其可ニ與謀レ始。非レ舍喜一則不可也。古人薦レ賢。不レ嫌ニ其子。何況家人。臣敢不レ避レ焉。公召レ君爲ニ府吏。趣ニ策ニ其方。君曉ニ民以レ利。勸各納ニ餘財。銀一千貫立奏。國鄙鄰邦。往往蟻

慕。愿ニ納數萬貫。早機交至。國用常足矣。泉府既建。殆乎傾ニ四方之財。民樂謳歌其姓名。凡銀錠有ニ數品。秤重千錢曰貫。奏納其品不レ一。合秤以定ニ其輕重。故曰貫也。冬十月公善ニ其能。進ニ班於家屬中士。所謂與力士者也。十一月。再賞ニ賜慶俸五十包。寶曆元年辛未春三月。命君致下造ニ松江大橋之賞上。君曉レ民納ニ千四萬錢。是時朝野未慣ニ於造橋之技。工匠備作。必毀ニ大坂人。故每造多置ニ有司。而致ニ其人於千里外。且此橋最大。故其費不賈也。二年壬申秋九月。賜ニ銀五錠。以賞ニ泉府紀綱成焉。建官有レ精。及曉納之勞。冬十一月轉ニ度支吏。三年癸酉秋八月。免レ官奉レ俸。特給ニ五口食糧。以擬ニ優養。君既爲ニ布衣。身無レ所レ業。退而就ニ郊外。トニ居於津田邑別莊。更起ニ宅於爽塏。大買レ田以宮レ之。華屋文屏。如ニ雉斯翼。行人引レ領觀望。猶尚未ニ以爲レ足。土木不レ

出入不レ計ニ其數。唯心ニ計ニ其大度ニ耳。其利莫往不レ生。果如レ所ニ心計。無レ幾致ニ財巨萬。考ニ室於橫濱。邑多ニ富豪。君家相匹。自レ非レ能通ニ殖貨之眞。而心計虛行上。何能如レ此。寬延三年庚午冬十月。天隆公。將下建ニ泉府。與レ民通上レ財。時小田切尚足相レ國。上言曰。知レ子不レ如レ父。知レ臣無レ若レ君。侯能知任レ臣。故得レ建ニ此議。臣亦自知ニ吾臣。臣家有ニ外臣舍喜者。其殖ニ貨生レ財。國中無レ比焉。使ニ舍喜在レ朝。則此舉必成。其可ニ與謀レ始。非レ舍喜一則不可也。古人薦レ賢。不レ嫌ニ其子。何況家人。臣敢不レ避レ焉。公召レ君爲ニ府吏。趣ニ策ニ其方。君曉ニ民以レ利。勸各納ニ餘財。銀一千貫立奏。國鄙鄰邦。往往蟻

慕。愿ニ納數萬貫。早機交至。國用常足矣。泉府既建。殆乎傾ニ四方之財。民樂謳歌其姓名。凡銀錠有ニ數品。秤重千錢曰貫。奏納其品不レ一。合秤以定ニ其輕重。故曰貫也。冬十月公善ニ其能。進ニ班於家屬中士。所謂與力士者也。十一月。再賞ニ賜慶俸五十包。寶曆元年辛未春三月。命君致下造ニ松江大橋之賞上。君曉レ民納ニ千四萬錢。是時朝野未慣ニ於造橋之技。工匠備作。必毀ニ大坂人。故每造多置ニ有司。而致ニ其人於千里外。且此橋最大。故其費不賈也。二年壬申秋九月。賜ニ銀五錠。以賞ニ泉府紀綱成焉。建官有レ精。及曉納之勞。冬十一月轉ニ度支吏。三年癸酉秋八月。免レ官奉レ俸。特給ニ五口食糧。以擬ニ優養。君既爲ニ布衣。身無レ所レ業。退而就ニ郊外。トニ居於津田邑別莊。更起ニ宅於爽塏。大買レ田以宮レ之。華屋文屏。如ニ雉斯翼。行人引レ領觀望。猶尚未ニ以爲レ足。土木不レ

絶彌年。甚好酒掃。至中夜不寐。則自起從一。事。又辟山嶺。澤播穀各隨其宜。多畜牛馬。以助田力。又廣捐子錢。以收其息。又多買市廛。以爲二。彼此所蓄息。累巨萬。不翅千石之富。君雖豪侈。理事甚勤。每夜八鼓就寢。雞鳴則興。殆乎有古人之風。家僮七十人。皆操事隨其叫喚。無一有偷懦轉脫也。村近三城市。其俗好逸。不竭力農圃。而比屋皆貧。君餘賞以振其貧。勉厲而救其逸。比屋相勸勉。衣食始自足矣。村民遇之如二。亦不翅新進大夫之貴也。於是更復現姓。從二。居八年。再召不拜。時銀鈔乏。資不流通。將仰給於素封。相國謂。舍喜從二事於境外。三。東都二八之大坂。無二不。成焉。即使三君入二大坂。十年庚辰冬十一月也。十一年辛巳春正月。得銀若干貫。而歸。銀鈔虛行復通。乃使三君照二察於銀鈔局。冬十月。賜二。米十八石。十二年壬午春正月。監二貨鐵勒合。夏四月。照二察常平倉事。是歲公奉二命修二造。近江州叙獄諸堂。其費數萬億金不測也。會二凶饑甚至。唯恐三其不支。六月圓流寺災。寺者 神祖原廟之守。而世世特所二修造之處。列國置一。神祖原廟。亦營造旁及寺。以顯二。其如在之敬。不。畜吾藩也。故奉命凶饑雖未。可。旁及。其。官。不。得。不。速。加。營造於其守。一朝危懼焉。即命二。其。君曰。臣有二計。營造可支也。乃募二取銀若干貫。以供。其用。冬十二月。賜二文金二。以賞二。照鈔之精。十三年癸未。叙獄修造。費用不。給。夏四月。命二。君聞。備後州尾道多二。富

人。即日促裝入二其境。共遊戲備情勢。風流態度。不讓二素封。富人服二其雅量。銀五百貫立出。乃揖而別。訪二四州古國之墟。夏。所謂屋嶋園浦殿嶼之勝。難曰。有。如。此。有。衆。如。彼。而。諸。平。無。人。六。軍。不。振。遂。覆。其。師。吁。嗟。成。堅。子。之。名。矣。優。優。特。無。促。亦。未。彌。月。而。還。此。行。也。無。相。識。僚。友。交。難。其。成。低。聲。耳。語。相。警。君。笑。曰。丈。夫。之。起。臨。機。而。應。怯。邪。屏。邪。何。預。計。成。否。我。不。成。此。事。則。不。復。見。諸。君。面。已。出。途。遇。二。人。狀。貌。魁。異。君。語。數。次。乃。知。二。其。賢。問。以。二。其。姓。名。二。人。曰。稻。寬。字。曼。卿。君。欲。二。其。與。行。二。人。曰。何。所。往。君。告。以。其。故。二。人。曰。我。嘗。幹。二。商。家。失。其。百。金。欲。償。不。能。已。就。乞。二。貸。於。尾。道。而。富。人。不。顧。遂。至。此。困。若。我。往。一。則。必。妨。二。君。事。敢。辭。君。曰。管。仲。之。困。豈。其。才。乏。哉。時。乏。二。情。勢。也。曼。卿。雖。信。孤。身。無。資。宜。平。其。不。顧。也。敵。邦。雖。小。兵。甲。數。十。萬。其。民。日。食。減。二。一。口。足。以。償。二。萬。金。有。有。貴。如。此。亦。猶。其。疑。二。焉。者。不。知。二。其。信。一。也。而。今。而。後。我。得。二。吾。計。矣。君。舉。二。百。金。置。二。其。囊。二。曰。曼。卿。弗。復。行。一。邪。我。愛。二。其。才。而。一。救。二。其。窮。一。是。自。用。也。唯。去。勿。レ。言。二。其。債。一。不。三。復。問。二。其。所。一。往。已。還。僚。友。皆。羞。六。月。賜。二。方。金。五。錠。一。以。賞。二。修。二。造。圓。流。寺。二。之。勞。上。秋。七。月。命。爲。二。新。番。中。士。一。賜。二。田。祿。七。十。石。一。賞。二。積。年。之。功。績。也。尋。兼。二。修。利。監。一。悉。修。二。佛。寺。一。封。內。一。新。其。費。不。貲。而。無。知。所。出。人。服。二。其。神。妙。一。冬。十。月。命。二。君。制。二。義。田。一。兼。二。掌。出。納。贖。貨。一。君。曉。二。民。納。二。錢。二。千。萬。一。以。預。供。二。世。子。監。撫。入。封。之。用。二。十。月。兼。二。義。田。監。一。尋。賜。二。銀。一。錠。一。以。賞。二。照。鈔。之。勞。一。十

更二造松江大橋一。八年辛卯夏五月。加三賜田祿。至三百石。是日賜二第於中橋之側一。君乃毀二舊屋。構二新室。丹墀玉堂。比二王侯一。奇綺壯麗爲二其最一。世謂二之小城賽關。

其費數千金。君不レ屑目。吾敢得レ罪。見レ奪二第宅一。自度不レ復得レ賜。焉。而今有レ此命。豈不レ大幸一哉。壯麗所二以不レ已者。欲下我千秋之後。使中子孫獻二之於國朝一。而相將可上レ居焉耳。以此謝二其恩一。則吾之願也。安永元年壬辰夏。松江大橋造成。秋九月賜二銀五錠。小吏數十人。

賜レ銀有レ差。皆賞二造橋之勞也。初相國爲政者皆謂造橋費銀。自古多至二百貫。少不下二三百貫一。從來爲レ然。故預謀二其賞一。以備二其虞一。今也公退老。侯襲レ封。謝恩問遣。既支二多方一。加レ之修宮大饗交々。國用不貲。日三三

其資。何二有於橋梁一。然此橋者。要路之最。一日不レ可レ無也。亦若二何於無レ所レ取レ資。不若專委二舍喜一。或有レ所レ爲。與二拱手而已一。乃召レ君屬焉曰。非二爾所レ司。唯爲二國謀レ之。君既奉レ命。相國爲政。且喜且恐。問二其資一。所レ費。君對云。銀百貫。而足矣。如得二舊費銀料三四百貫一。則廢著生生。以備二其用一。而永世每造。可三以給。而不レ盡也。相國爲政。益怪訝焉。君先曉レ民。納二銀一百貫。不拘二舊貫一。而其真是求。獨以レ身任レ事。不三別置二有司一。工匠備作。一取二之於國一矣。家人舊故。愕然爲危焉。君星出屋入不二怠皇一。工匠備作。依レ君濟レ事。其巧不レ減。大坂人二蓋三歲一日矣。及レ成堅蔽踰二於舊造一。而其所レ計之資尚

有レ餘。用以造二天神北堀兩橋一。國民自レ是價二於造橋之方一。後來有司效二其法一。諸橋造費。皆省三分之二矣。君之不レ屑レ筭。凡公私出納。唯心二計梗槩。莫二往不レ合。人皆尤服二於此役一矣。三年甲午夏六月。置二修殿繕舍局一。以レ君兼二其監一。賜二便閣相袍一。四年乙未秋八月。兼二修城監一。歲賜二勞料米二十苞一。五年丙申冬十月。賞二賜桐章。截袖袍一

具一。六年丁酉夏六月。兼二將作一。於是身總二五官一。日夜經營。五官各得二其條理一。學士稱比之蘇秦。君聞曰。使三吾生二於合從之世一。亦如二此是五官耳。學士之無二仁勇彊一。而不レ達二權變一。何得レ知レ之矣。冬十一月十二日疾

勿。享レ年五十七。葬二于出雲白瀉街。本妙山久成寺一。僧益二見龍院普明日浩居士一。蓋本二千易象一。云二見龍在レ田德施普也一。且浩者。用有レ餘也。普明者。日光無レ端也。其意謂明德如下日光普二及下窮一。而猶有餘裕上也。自レ非レ有其德一。何以得二之於方外一乎。君爲レ人賢豪自居。處則殖レ貨致レ富。廣施二親戚故舊一。其竣レ君舉レ火者。七千餘人。移宅建置十有五。散レ財折レ貨。二而三。衣食翫弄。好尙益珍奇。而其貨益裕矣。出則自二室老一至二比大夫一。常

總二三官或五官。若數十職掌。無二不三各一。成二條理一。數致二數千萬金。以支二國朝之用一。數發二奇計秘策一。以釋二士民之困一。匱乏之間。隱然爲二敵國一。微官獨身任レ事。且相國諸人。猶尚不レ可二企及也。君之居レ官。聰敏善斷。眉動則知二其心一。目瞬則察二其意一。故能得二人心一。而通二上下之情一。高僧祠主。世所レ難レ裁。皆能服從。而訟決二於

下之情一。高僧祠主。世所レ難レ裁。皆能服從。而訟決二於

下之情一。高僧祠主。世所レ難レ裁。皆能服從。而訟決二於

君一。吏惡テ寵橫暴。有司無レ奈ニ之何一。君舉劾合ニ情勢一。相國悟而遠レ之。吏乃服從。君愛而不惡。教化改ニ其過一。遂爲善人。其接ニ卿相一也。公論簡明。絕無レ諛言一。其待ニ諸小吏一也甚嚴矣。彼善則大ニ喜一。彼不善。則深怒。能令ニ人致ニ其力一。有レ勞則必表章。舉レ才最多。君所ニ表舉一。亦多見ニ實用一。故小吏皆樂ニ爲レ之用一。其對ニ僚屬一也。無レ所ニ屈降一。叩叩如ニ野鶴一在ニ雞群一。以レ故人多惡レ之。嘗有下肆ニ君之舊實一於ニ稠人廣衆一。以醜惡罵者。君笑曰。實則寡矣。然吾能建ニ諸局之法一。使ニ三衆僚一自淑於此。特宜ニ祀奠一。亦不ニ實人之徒一邪。其人乃毅然。世稱ニ君有三絕一五辭一。又有ニ中西之厄一。殖貨大度敏疾爲ニ三絕一。永名卓異土木洒掃珍奇爲ニ五辭一。己酉病。辛酉薨。癸酉。乙酉。

十四
道一。生レ之者多。食レ之者寡。爲レ之者疾。用レ之者鄙。則財恒足矣。史遷云。勸ニ其事一。樂ニ其業一。若ニ水之趨下一。日夜無レ休時一。不レ召而自來。不レ求而民出レ之。財幣欲ニ其行如流水一。趨レ時若ニ中一。猛獸驚鳥之發上。吾聞ニ此言一。而求ニ其心一。得ニ其心一。而思ニ其宜一。以レ施ニ之於當世一。故處則富ニ室家一。出則潤ニ國朝一。是不ニ吾自智一也。古道之不可レ以レ已一也。僅僅數言。學士誰不讀。猶尚ニ疑一。勢一。不レ知レ所レ守。無レ已。清貧自甘。轉軻終ニ身一。徒誦ニ其言一。不レ求ニ其道一。遂暗ニ於其心一。而不レ知レ何爲多。何爲疾。何爲行。何爲趨。何爲流水獸鳥也。童習レ所記。六言六蔽。及散ニ見於論語一者。名實之異。古尙有焉。其執レ名而迷レ實也。其所ニ以爲一多疾行趨流水獸鳥。何以知

不レ異ニ乎古人所謂多疾行趨流水獸鳥一。唯是不知。執迷暗ニ於其心一。亦驕驕ニ自負一。論ニ古道一。說ニ經濟一。妄謂ニ吾得レ聖人之旨。吾成ニ當世之務一。多見ニ其不レ知レ量一。夫無レ嚴處奇士之行。而長貧賤。好語ニ仁義之名一。而暗ニ其實一。亦足レ羞也。是乃百家所ニ以レ自衰一也。吾嘗專讀レ書。遂薄ニ其人一。而中廢矣。僅僅數言。尙足ニ自淑一。能讀ニ萬卷之書一。以末ニ其心一。豈不レ有レ所レ益乎。吾治ニ其道一。如治ニ我產一。吾建ニ其正一。如レ定ニ局法一。則百家之弊。豈不レ可レ矯救而掃レ焉。乎。言畢。數誦ニ日月逝矣。歲不ニ我延一。嗚呼老矣。是誰之愆。吟哦頗高。援ニ筆而和一。此乃朱文公勸學文。坊刻載在ニ古文真寶一。亦童習所レ記也。君臨ニ死告ニ伯長一曰。吾出ニ於室老一。至ニ比大夫一。起ニ於貧窶一。終ニ大富豪一。金屏繡褥輝レ席。親故數百滿ニ坐一。身臥ニ于其間一而決レ策也。唯吾初欲ニ立ニ乎本朝一。而與ニ天下之善士一。又遊ニ於三都一。以拂ニ中海內之弊一學上矣。痛哉貧。傷哉衰。將ニ纒越レ之境。則無レ甘ニ養以養父母一之計上。三冬就レ學。則無レ文史以博ニ識聞一之資上。無レ已。殖ニ貨治生一。以レ財發ニ身一。雖レ在ニ下僚一。其功匹ニ卿相一。是亦爲レ政也。如ニ其善政一。則已矣。獨德ニ財既有餘一。而學不レ足。遂無レ掃ニ百家之弊一。顧天下之大。豈無ニ其人一有ニ嚴處奇士之行一乎。其學既有餘。而足ニ以掃ニ其弊一。亦聲ニ戶懸レ不レ宣一布其書。而清貧失ニ其志一者。不レ可レ無也。子貢之事一。廢著ニ有レ由哉。竊聞ニ國師孔子一。發ニ至善情勢一之說。以掃ニ百家之弊一。其書大小歸然。蓋各ニ建ニ其正一。是先得ニ吾心一者矣。名實之合。將在ニ于此一。抑何宣布之希。豈彼懸鶻

十六
不レ異ニ乎古人所謂多疾行趨流水獸鳥一。唯是不知。執迷暗ニ於其心一。亦驕驕ニ自負一。論ニ古道一。說ニ經濟一。妄謂ニ吾得レ聖人之旨。吾成ニ當世之務一。多見ニ其不レ知レ量一。夫無レ嚴處奇士之行。而長貧賤。好語ニ仁義之名一。而暗ニ其實一。亦足レ羞也。是乃百家所ニ以レ自衰一也。吾嘗專讀レ書。遂薄ニ其人一。而中廢矣。僅僅數言。尙足ニ自淑一。能讀ニ萬卷之書一。以末ニ其心一。豈不レ有レ所レ益乎。吾治ニ其道一。如治ニ我產一。吾建ニ其正一。如レ定ニ局法一。則百家之弊。豈不レ可レ矯救而掃レ焉。乎。言畢。數誦ニ日月逝矣。歲不ニ我延一。嗚呼老矣。是誰之愆。吟哦頗高。援ニ筆而和一。此乃朱文公勸學文。坊刻載在ニ古文真寶一。亦童習所レ記也。君臨ニ死告ニ伯長一曰。吾出ニ於室老一。至ニ比大夫一。起ニ於貧窶一。終ニ大富豪一。金屏繡褥輝レ席。親故數百滿ニ坐一。身臥ニ于其間一而決レ策也。唯吾初欲ニ立ニ乎本朝一。而與ニ天下之善士一。又遊ニ於三都一。以拂ニ中海內之弊一學上矣。痛哉貧。傷哉衰。將ニ纒越レ之境。則無レ甘ニ養以養父母一之計上。三冬就レ學。則無レ文史以博ニ識聞一之資上。無レ已。殖ニ貨治生一。以レ財發ニ身一。雖レ在ニ下僚一。其功匹ニ卿相一。是亦爲レ政也。如ニ其善政一。則已矣。獨德ニ財既有餘一。而學不レ足。遂無レ掃ニ百家之弊一。顧天下之大。豈無ニ其人一有ニ嚴處奇士之行一乎。其學既有餘。而足ニ以掃ニ其弊一。亦聲ニ戶懸レ不レ宣一布其書。而清貧失ニ其志一者。不レ可レ無也。子貢之事一。廢著ニ有レ由哉。竊聞ニ國師孔子一。發ニ至善情勢一之說。以掃ニ百家之弊一。其書大小歸然。蓋各ニ建ニ其正一。是先得ニ吾心一者矣。名實之合。將在ニ于此一。抑何宣布之希。豈彼懸鶻

不レ成ニ其志ニ者非邪。東都山陰相距千里。吾未レ有レ見ニ其人ニ也。若爾從ニ事於國邸ニ則爾ニ其志ニ矣。能得ニ吾心ニ乎否。若果能得ニ吾心ニ。則爾資以宣布而可也。若爾所ニレ資。則以ニ吾姓名爵里ニ。題ニ其編末ニ。雖其書成於人ニ。猶如レ出ニ於吾ニ。若依ニ其言ニ。以醒レ世却レ迷ニ。而有能一人蒙ニ其化ニ者。則吾志願足矣。爾能使ニ吾ニ成ニ志願ニ。而揚名於後世ニ亦唯是。爾能使三百家得ニ其所ニ。而吾限ニ於黃泉ニ亦唯是而已。且吾ニ營ニ名於百家ニ。立功之機。蓋在ニ千此一矣。夫營ニ名。生財也。立功。大度也。見レ機敏疾也。稟梓之勞。醒世。卓異也。題末。永名也。善書。珍奇也。精刊。土木也。校刻。洒掃也。是吾絕癖。世所稱者。其不レ亡亦存ニ千此一矣。三絕五癖存不レ亡。則吾死猶如レ生。日。爾見ニ其愈行愈化ニ。亦猶如日狎ニ膝下ニ。見中吾舉動上。樓櫓几筵宴如。其墓畢如隔如。死者不レ可ニ復起ニ。亦何以異ニ乎。謂ニ父母孔遺。孝慈是常。爾其思レ旃。雖然吾豈徒虧レ爾乎。歲時伏臘。若世俗回忌。自ニ其祭饗進レ醪。富厚自通。捐レ金請レ僧。念レ經致レ齋也。願以ニ其資ニ資ニ於衆梓。爾如之敬。亦復唯是有ニ明信ニ矣。死者若有レ知。則吾其儼然憤然。而殷云然。否。則吾神將レ吐ナリ。爾其思旃。雖然吾豈永虧レ爾乎。東都葛陂陷曼卿。信士也。氣義慷慨。任俠。已ニ然諾ニ。忠謀誠精。自任有ニ才幹ニ。嘗困ニ於雲伯之間。吾嘗三百金。裝ニ其囊中。而後始得レ還レ郷。每行李往來。曼卿附ニ郵筒ニ。數問下所以償ニレ之便上。吾信其人。未レ告ニ其方ニ。曼卿拳レ囊。裝ニ吾報ニ也久矣。計至則必償ニ之於爾。爾謹勿レ納レ焉。勿ニ復問ニ其有無ニ矣。吾遺ニ

十七

十七

第一。曼卿從レ事。則假令寫刻千萬卷。亦貨貨生。永富ニ平其用ニ。爾及孔平稻氏。皆信士也。雖然人世如ニ過隙ニ。豈能保ニ子孫ニ乎。三家各立ニ約券ニ。則此金無レ所レ屬焉。又無レ所レ不レ屬焉。我不レ可レ取矣。彼不レ可レ失矣。訟則各有レ罪。誰爭奪焉乎。人情愛ニ父母ニ。欲レ顯ニ其德ニ。愛ニ己身ニ。欲レ揚ニ其名ニ也。然而子殺レ父。身失レ德者。爲レ利也。無レ利而欲ニ父母。有レ損而失ニ其名。誰不ニ爭避ニ乎。顯レ德揚レ名。不レ費。而得レ焉者。亦利也。有レ利而顯ニ父母。無レ損而揚ニ其名。誰不レ就從ニ乎。故三家同從レ事。則不レ求而「永傳。不レ布而自遠」矣。是情勢之自然也。雖然可下與ニ知者一語上。不レ可下與ニ愚人一論上。兩謹勿レ言。唯以ニ此爾。與ニ曼卿。是我所ニ預畫ニ焉也。燒レ香園レ墓。談笑而逝矣。聽者莫不レ感焉。配廣瀨氏。名楚耶。杵築廊脚人某女。才敏有レ量。能守ニ其業。殖レ貨之功。與レ君相匹。生ニ男一女。男天。養ニ伯長ニ爲レ嗣。以レ女妻レ之。有庶女ニ。適ニ留守居番上士。今瀬正誼稱權之輔。伯長名舍昌。伯長其字。號東臯。稱ニ茂大夫。忠心。伯子。初稱ニ勤八。後更ニ現姓名字號稱。受ニ學於文學桃子深。雙ニ君田藤。爲ニ二番上士。乃獻ニ其第一。自移ニ千別莊。成ニ君之志也。伯長追慕之餘。建ニ碑于莊中。以像ニ墓表。使ニ子深。文ニ於其石。凡一千九百二十四字。掌書記。海野叔明稱辰五郎書。碑刻堅精五年始成。蓋辭字質工。皆一時之選也。余西望之久。喜ニ略聞ニ其說。自レ非下物達ニ其至善。明中。其情勢上也。當世用舍行藏之務。何以得ニ出處各流通。不レ已。如ニ平常之談。臨死之言。至理。乎哉。若使ニ君

十八

十八

反^ナ二百家衆技^ノ之正^ニ。則古道將^レ復^{ント}也。學士何^レ及。是其^レ或^{ナラ}得^ニ其^レ眞^ニ矣。然^レ名^ノ之詳^ニ。而迹^ノ之略^ニ。遂^ニ無^ク能^レ見^ル其^レ眞^ニ者^ニ。姑^ク文^ニ其^レ迹^ヲ。加^ニ三^ノ余^ノ所^ニ側^ニ聞^ニ。以^レ應^ニ伯^ノ長^ノ之^レ需^ニ。且^レ記^シ余^レ得^レ見^ル下^ニ彼^ノ經^ノ紀^ノ之^レ倫^ニ。尚^レ有^ニ其^レ能^ル得^ニ眞^ニ於^ニ其^レ所^ニ者^ニ。云爾。吁嗟古道^ノ之^レ衰^也。其^レ利^鈍反^レ名^也。賢^愚非^レ實^也。而各^レ不^レ得^ニ其^レ所^ニ也。能^者失^レ官^也。不^能者居^レ職^也。富^者不^レ仁^也。仁^者不^レ富^也。失^レ官^者隱^也。居^レ職^者顯^也。富^者日^レ宣布^也。而^不富^者倍^レ不^レ傳^也。於^レ是^レ賢^能仁^者。失^レ名^而隱^也。愚^不肖^獨揜^然以^レ顯^也。無^レ名^胡適^也。不^レ傳^胡從^也。假^令欲^レ扶^レ以^レ宣布^一得^乎。徒^其名^之適^從。扶^レ以^レ宣布^一去^レ之^倍遠^也。是^其所^下以^レ千^歲寥^寥。而^君薄^ニ其^レ人^一。爲^レ上^レ有^レ見^也。』

(三) 埶勾當傳

埶勾當傳

孔平 信敏

我邦替者彈^ニ琵琶^一。莫^レ古^於木^幡之^レ官^也。所^レ謂^ニ其^レ形^甚實^似僧^也。以^ニ三^ノ秘^ノ曲^一授^ニ源^博雅^一者是^也。後^世喪^レ明^而乞^レ憐^也。其^抱二^{琵琶}而^歌者^爲二^{盲人}一。其^擁レ^阮者^爲二^{替僧}一。其^類不^レ相^同一也。盲人^或祖^ニ二^{蟬丸}或^祖三^平景^清一。替^專祖^ニ二^仁康^王一。皆^無レ^所レ^徵矣。史^云蟬丸^廬二^會坂^一與^ニ食^於行^人一。僧^形重^頭善^和歌^和琴^一。仁^明帝^勅良^宗貞^一就^而乞^レ焉。或^云蟬丸^者延^喜帝^{第四}子^也。或^云敦^實王^喜二^{琵琶}一。有^二秘^ノ曲^一。曰^流泉^啄木^也。蟬丸^聽而^自得^焉。是^幡盲^{蟬丸}其^事相^類。故^世或^混淆^也。仁^康王^者仁^明帝^之子^王也。與^二蟬丸^一或^同時^也。或^同皇^子也。故^盲人^一效^ニ其^混淆^一。替^僧以^二蟬丸^一爲^二仁^康王^一。其^實皆^謂二^幡盲^一。以^レ類^誤也。且^{蟬丸}自^曰。眺^行人^一。野^史云。景^清絕^レ食^而死^也。則^其

不^レ盲^也明^矣。何^必祖^爲。風^流義^烈。援^而自^託而已^矣。夫我^邦之^樂。多^傳於^漢唐^一。古^之時^俗音^不レ^起。尚^或有^三代^之遺^一。幡^盲蟬丸^所レ^彈。亡^レ論^其爲^二正^一聲^一。盲^人多^弄二^管絃^一豈^有レ^所レ^效二^彼二^代替^師之^制欤。雅^音之^盛。謠^誦念^經亦^復協^二聲^律一。如^下古^書旁^點多^加二^音律^一。僧^家讀^經有^甲乙^二聲^上。今^尚盲^人唱^二地^神經^一。幸^舞有^二宴^曲諸^集一。其^源可^レ見^也。古^之調^樂雖^三專^仍二^雅音^一。或^憾二^曲調^存而^歌詞^不レ^傳。或^調下^朗詠^諸書^一。唱^以調^中琴^瑟琵琶^上。或^別作^二新^調一者^間有^レ之。蓋^爲二^今樣^唱之^備一。琵琶^獨盛^也。延^及三^牌官^小說^一。漸^變爲^二俗^樂一矣。觀^二平^兼盛^之言^一。時^有下^其抱^二琵琶^一而^乞憐^者上^也。此^應二^盲人^替僧^之祖^一。而^未レ^知下^其所^二誦^唱一爲^何物^上。四^條帝^之時。僧^性佛^始唱^二誦^平語^一以^調二^{琵琶}一。而^其流^月繁^也。有^二相^氏之^末一。新^声日^行。其^流有^二檢^校城^一。弟^子之^撰曰^二城^玄一。曰^三如^都一。其^弟子^有二^覺都^一。皆^相續^受二^其職^一。常^侍二^權貴^之歡^宴一。而^不必^乞レ^憐。替^僧虛^任。始^經見^于此^一。蓋^出于^三僧^官一矣。世^謂古^有二^勾當^內侍^之稱^一。仁^康王^喪明^自憐^二其^類一。多^召二^盲替^僧一授^以二^其職^一。終^傳爲^二替^僧之^官一。是^詔聞^其稱^一。而^造レ^焉。勾^當內^侍。出^于後^世也。仁^明帝^時豈^有レ^之乎。檢^校勾^當皆^執事^管轄^之通^稱。元^非二^官名^一。故^武人^僧家^皆稱^レ焉。王^室徵^而後^也。其^稱最^盛於^武人^僧家^也。其^傳不^レ出^二於^王家^一也^明矣。盲^人替^僧。原^總於^二舊^一。盲^人乞^レ憐^仍舊^而賤^也。替^僧日^老月^貴。且^多侍^レ勢^恣橫^也。不^受二^其制^一。覺^都者。高^氏之^族也。及^三師^直權^レ權^一。使^三覺^都別^總二^替僧^之政^令一。号^曰二^明石^總檢^校一。於^レ是^盲人^替僧^分爲^レ二^一。而^盲人^乞レ^憐。替^僧貪^良家^子弟^之喪^明。耻^レ屬^二流^一。

隱居自食者有焉。城玄如都。其流復分為二。城玄之徒。必名曰「城某」。如都之徒。必命曰「某都」。各以為「記号」。而分二其流末。復分二八派。雖同受二總領之政。一。窃相引繩排根矣。俗案之興。琵琶最行。譬僧趨世之喜好。爭操二琵琶。今尚以為二祖業一者其遺也。及「俗案新制」。愈出愈變。筑箏悲而胡阮淫。洞簫訟而單節憂。是其最移レ人者也。譬僧操以媚レ人。逢二迎其喜好。不三復必事二琵琶。矣。胡阮乃唐阮咸原与二琵琶同類。非二俗案之器一也。傳入二琉球。其音浮揚。易レ撥以二胡弓。其聲始淫也。再入二吾邦。其制日變。市川檢校虎都者出。而操音度曲。其法具。浮揚淫逸極矣。其妙可三以奪二列土之志。可三以易二貞婦之操。此曰二三絃阮。世人莫レ不三喜好焉。譬僧復爭趨而阮獨盛。日曲日出。繁年月加何限。琵琶平語。猶尚以為二祖業。亦寥寥知レ焉者希。至二譬僧不レ貯二其器。矣。元祿中。自二杉山檢校者以二鍼術二侍中。憲廟上。譬僧隨發レ跡焉。效以取二責任。者十有餘人。衆譬日爭效而趨二鍼灸。自レ是鍼灸遂為二其一業。譬僧之業日繁。自レ此之後。檢校勾當比譬レ官。金液銅臭無レ所レ差。專以二絃歌鍼灸募金借貸一為レ業。以二稱肩詭笑貪貨責債一為レ務。不三復必乞レ憐也。然而新聲之愈變。雜劇隨レ此起。

絃歌妙究二其繁變。乃以二譬僧一為二古拙。靡然笑謂。玄尚白。一是一。於是權貴之歡宴。多延二其徒蕩子之操レ音。專仰二其流。鍼灸亦一時之趨尚也。或嫌二其欠二望色。遂不復盛。一。譬僧爭效二其技。不レ能レ奪二其利。至三變レ形為二醫師雜劇。一。歡宴治病。延レ焉者寥寥日希。唯筑箏非二雜劇所二必用。一。僅屬二之於譬僧。一。譬僧日艱二於糊口。而憔悴之念

ハ僧外小
列為本士
之體乎

(三才)

(四才)

隨盛焉。昔在譬僧雖二命曰レ貧。風花雪月侍二權貴。各竭二其力。一。以仰二其歡賞。而已。猶尚有二風流文雅之態。一。京師之俗今尚歡宴延二譬僧。一。時下其效二雜劇。者上其遺也。其業日繁。其志月卑。終歸二於貪貨捐貨。矣。余觀二近世譬僧之俗。一。亡レ論一躬行不レ修。文雅絶レ跡。巧者絃歌。拙者鍼灸。逢迎誑誑。導レ淫誘レ惡。以顧二金錢。一。旁及二拜除轉封之私。謁以受レ賂。嫁娶移第之媒。逐中其什一。利之所レ在一切無レ知不レ為也。積レ貴長レ財。則以二買レ官為レ名。出捐賈貨而貴レ徵二其利息。至二息金謝錢。一。前收二半本。一。故雖レ有二虛債虛計。不レ失二其本財。且官廳重レ名理二其訟。一。取者備レ暴不三敢違。一。虛債虛計。大抵率無レ有也。諺曰欲レ直二其角。一。却殺二其牛。一。彼世子錢有レ慮二於此。一。必擇二取者之產。不三敢妄損貨。一。譬僧乘レ勢出捐如レ振。則貧民窮士寒。先得一而不レ謀。其後二。照々穰々而糴至。各取若二水之趨レ下。一。則譬僧趨時若二猛獸驚鳥之發。一。或其息什レ之。無二王侯都君山川海鹽之饒。廢二著付觀變察勢之智。一。斷々無二他技能。一。而素封之富日記。貧民窮士。愈乘愈取而捐賈貨愈廣。乃多養二譬僧。一。以為二親黨。一。使二其黨取レ債。債還與息不レ如レ約。取者少抵負。則繫々拍レ肩而往。守レ家責レ之。攘レ臂牽レ手。罵詈詬辱尤甚。連日連夜。召レ衣呼レ食。問酒招レ茶。叱吒咄嗟亦復至。遂「非二通得レ所レ欲。一。則不レ去也。偶遇無二石之貯。一。而不レ能レ償。若逃二自捐上。一。則推二釜飯。一。剽二床褥。一。而去。暴傑莫レ甚レ焉。又其教レ人也。自恕而責レ人。尊敵一託二師道。一。溫顏逆戾。貧富是視。秘操禁曲。只隨二謝錢。一。空称虛賞。比二於逢迎。一。詬辱楚撻。疾二於責レ債。雖レ有二博雅宗貞之誠。一。敬帝之珍。燕石之襲。貧家不レ能レ受二其傳一

也。彼此幅湊素封日厚。驕奢淫逸不_レ期而至。亡_レ論_下其誘_二他人_一。其姦_中婦女_上。衣食妻妾。一擲_二王侯_一。一舉_二萬錢_一。一擲_二千金_一。日噫_二窮士之膏血_一。頓振_二之於歎歎之戲_一。抑何甚忍。幡首蟬丸仁康王。仍其所_レ傳則當_二香火_一。而其嚮_レ神也。禍福是僞。怪靈是慕。其期_レ願也。無_レ不_二貪財機利_一。於_レ是大黑辨天最顯。建_レ堂供_レ獻_レ不_レ吝_二萬金_一。此不_レ忌_二彼膏血_一。亦逢迎媚諛貪暴之貨。神若有_レ知。豈能享而不_レ吐諸。其掩忽而_レ死也。傳燈血脈。僧家是效。法兄法弟遺賫是爭。終使_二妻子親戚不_レ受_二其澤_一。凡_レ賢僧見_レ利。則不_レ讓_二父兄親友_一。巴頂僧服。虎心狼悻。滔々者_下皆是。吁嗟悠悠千歲。無_レ一_レ人能免_二其俗_一。幡首蟬丸之高操文雅。何以得_レ藉_二其口_一。寥寥無_レ其人_一哉。昭平百年。文運之盛。才子日輩出。亦表明之士以_二文雅_一顯_二於世_一者。長澤丑。高惟馨。谷友信僅三人而已矣。然皆耻_レ為_二其徒_一。不_レ屬_二三流_一。而躬行貪暴自若。且丑專_レ經究_二四子_一。惟馨友信善_二一俗詩_一。其_レ餘不_レ足_レ觀也。千歲果寥寥。其能免_レ俗。而躬行文雅兼具_レ焉者。

(五ウ)

(以上實頭ヨリ一勾當天ノマア事類補本ニハ無シ)保己
獨有_レ埒勾當_一矣。埒勾當姓荻野。名保己。小字辰之輔。武州兒玉郡保己野里人。孝慈友愛。躬行甚備。專精誠_一。從_レ事不_レ苟。其先某。仕_二豐臣氏_一。天正之役蹈晦走_レ東。家尚存_二二鼎_一。餘無_レ所_レ傳也。保己七歲喪_レ明。十歲失_レ母。其父鰥曠且貧。此言_レ賢之子。莫_レ能養_レ焉。乃_レ之_二於東都_一。其師雨富檢校菅一者。家在_二城西四谷_一。保己受_二彈阮之法_一。新阮歌唱。四年皆不_レ成_二一節_一。更授_二鍼法_一。復四年不_レ成_レ焉。(ナシ)待而笑語。則觸_二忌諱_一。而遇_二彼怒_一。守而收_レ憤。則傷_二窮厄_一。而任抵

(六キ)

負。師謂保己未_レ憤_二其_レ事_一。宜_二同行效_二其為_一也。常令_二法兄豐一若衆誓同往_一。保己見_二其媚醜之態_一。則心耻_レ諫。數_レ擊_二其衣_一。聞_二呵責之聲_一。則顏憂_レ泣下。心居_二其間_一。遂迎導誘_レ辱叱吒。皆不_レ復_レ濟_レ焉。法兄衆誓_レ路往_二保己_一。每_レ還入_レ門。衆々_レ膝行。拍_レ肩同進_レ口。盲賊。佛。數_レ誅_二吾事_一。宜_レ速_レ逐去_一。師怒而不_レ逐。皆感_二其誠_一也。陪笑責_レ償。自_レ此無_レ與_レ焉。雖_二字_レ鍼不_レ成_一。貧因_レ急_レ。或有_二二請_レ焉者_一。一日鄰家貧婦疾。保己辭而不_レ治。疾家固_レ請_レ焉。保己不_レ能_レ已。鼓_レ鍼撫_レ腹而罷。明日疾家致_二謝錢_一曰。鍼罷腹疾頓愈。自_レ非_レ遇_二明治_一。何以能_レ如_レ之。窃_レ差_レ薄儀_一。非_レ所_二敢當_一也。保己辭而不_レ受。疾家感_レ泣無_レ已。保己歎曰。我_レ未_レ解_レ鍼。假令_レ鍼益_レ疾。無_レ能_レ去_二其患_一。且昨日之事。以_レ塞_レ責而已矣。若使_レ疾家知_二其實_一。仇_レ讎_レ視_レ我。果何_レ謝_レ之有。彼無_レ知而以為_レ効。貧因_レ不_レ自_レ給_一。亦典_レ質_レ以_レ謝_二仇讎_一。雖_二誠_レ懲之至_一。其愚不_レ可_レ怜乎。我從而自_レ誇_二自神_一自_レ妙。以_レ眩_二惑四方_一。足_レ以為_レ生。然眩惑悅_レ愚。而奪_二其貨財_一。其罪甚_レ於_レ責_レ債怒_レ人以_レ噫_二其膏血_一。醫不_レ可_レ為_レ也。自_レ此遂廢_レ鍼。大黑之講。辨天之念。誓僧所_レ最_レ趨_一。衆誓擯_レ斥不_レ納。保己鄙_レ業不_レ請。交情日疎。是以其誠_一不_レ苟。亦誓

(六ウ)

(ナシ)僧之業無_レ二所_レ成也。師以為_レ不_レ能。而不_レ強_二其業_一。惟_レ恰_二誠_一。而斯_レ養_レ之。平生_レ揮_二其長_一。乃_レ視_二其所_レ以_レ觀_一其所_レ由。察_二其所_レ安。則歌唱_レ字句。一聽_レ無_レ不_レ記。其語其義精詳而不_レ倦。試使_二保己就_二學士大夫之家_一。聽_レ其語

(七キ)

讀無二所レ失。師問曰。何業所レ欲。何神最尊。保己曰。無若二讀書之業。而瞽人不レ能二自見。欲レ聽一人之誦讀。而憾不レ得其人。嘗天神者。博學之宗。豐臣神者。遂レ志之首。心所レ嚮也。師乃使保己廣求二其友。常祠中管天神上。絃歌鍼灸大黒辨天。亦復不レ強矣。豐一善捐貸生財。辭レ師成二一家。樓レ妻擁レ子樂矣。數年病死。遺二円金五百片。且富一家什。保己當下以二法弟受中其後上。有其資一而保己不願也。或人勸厲曰。捐二此金以贖貨。則大率年得二息三百金。是不二上大夫之產。其子々相生。息々相長。則不レ假二絃歌鍼灸逢迎教授。而可三坐致二王侯都君之富。時不レ可レ失也。保己曰。古云渴不レ飲二盜泉之水。我雖二

貧困一。豈望二貪暴之貨。豈奪二人之貨。使其妻子餓二乎。鴻伯鸞不レ因二人熱レ釜炊。我豈利二人死一而因二其產二乎。若不レ能レ已。滅レ龍更燃レ之而已矣。假令我奪且利。自レ非廢二讀書一以效中彼貪暴上。何以得レ成二其產。富貴在レ我如二浮雲。豈以レ所レ好。易レ所レ惡乎。不レ聽。衆瞽聞而誚曰。保己其何為者。陪笑責債誤二吾事。絃歌鍼灸身不レ屑。豐一之死天幸也。幸有二天錫一。則棄如二敝蹤。覷面目。日糜二師飯。保己其何為者。雖三師不レ強亦知二其長。而不レ能二自教。求其友二而不レ拒二其誚。好尚之不レ同。勢之不レ可レ已。也。保己不堪二衆瞽之喧誚。又惡二楚人之咻不レ能レ置一身於狂獄。且耻レ無レ功レ食二於師。欲卒二燔間祭者。又願而之上他。亦法兄法弟無二乞レ恰者。慮下辱二其師。而不中

敢仰望上。足跡偏二鄉里無レ所レ得レ食。東走西奔。日就二故舊。朝食二南郊。夕飲二北鄙。卒乏二厭足之道。一日一食以為レ幸。城西麵坊有二管神廟。距二郊鄙。大率二十里。保己不レ食。味爽粟趨千日。每レ趨百回。還拜於廟庭。家居亦常拜レ神。每且誦二般若心經二百遍。至今不レ絕。足レ見二其精誠一。專祈レ得二其人。亡レ論不レ折二財利。末二嘗及二其餘一也。世感二其誠精。奈二誦讀說釋以佐二其業者日多。羽林高井松平氏。最善二其誠精。養レ之佐レ之。保己謂二生二於其國。暗二於其故。可也邪。讀者即隨二其意。終博二邦典。精二於其詰。高井氏第在二于城中既溪。保己卒寓二其第一。村里相隔。事レ師誠一。尚如レ在二其家。日延二雅士豪俊。無レ養二瞽僧。友人勸二買レ官自樂。保己曰。我產二銅臭。不レ聽。師聞勸二保己從二其言。保己始許レ之。友人相喜鳩レ貨二百

金。乃買二任勾當。号二塙勾當。塙者師本姓。冒以為レ号者慕二其師也。聲名日興。從游月繁。寓居隘陋。不レ能レ容レ衆。及二人復議。鳩レ貨卜レ築。移于同鄉蝦原。買レ官卜レ築。不レ假二賞謝借貸一切食貨之術。而金給居成者。其流所レ未二曾有。亦唯誠精感レ人也。或人曰。醜二惡瞽僧。而屬二其流。明二達義理。而佞二鬼神。何也。又移二居于城東。從游必盛。其為レ利不レ多乎。保己曰。我屬二瞽僧。父命矣。常祠二管神。師命矣。我豈敢違二父師二乎。雖二四谷蝦原。内外不レ同。壤相接。境相續。尚得二事レ師如在二其家。城東十里餘。遠矣。不レ得二事如レ意。豈走レ利忘レ師乎。且辟レ喧染レ古。繁華非レ所レ

好。若苟事レ利何必辭ニ瞽僧之業一。保己諄々能教レ人。無ニ一
所レ秘。溫顔接レ人不。釋ニ貧富一。厚饗重精必辭不レ受。叱吒之
聲未ニ嘗及ト馬一也。稽レ古折レ義專竭ニ其力一。思レ之又思。

不レ得不レ已。衣食起居一比ニ巨隸一。金錢有レ餘。則一委ニ之藏書
之資一。未ニ嘗自供ニ歡娛一也。亡レ論ニ逢迎誑誣。導淫誘惡。拜除

(九〇) 轉封。嫁娶移第。捐貨驕奢之陋。絶無「釣」名機利之意。質
儉貧約。晏如榮矣。保己雖下辟ニ繁華一。厭中榮盛上從游日盛。

聲名月興。遂不レ期而揚ニ于四方一。四方藏ニ秘書一者。欲レ
出以佐ニ其業一。亦唯誠精感レ人也。君子曰我邦載籍殘缺。且

多ニ禁秘一。故非不能博ニ於古一。旁陟ニ於禁秘一而向々相對
照上。則不能ニ究ニ悉其故一。然而陟ニ於禁秘一者不レ務レ博ニ於

古一。能博ニ於古一者不レ能レ陟ニ於禁秘一也。常以為レ憾也。保己
傳レ古冠レ世。尺得レ陟ニ於禁秘一。邦典之掃レ正。將レ有レ日

矣。保己今茲三十二。懔々服膺焉。復古之業。必也在ニ此
人一。

孔平子曰。風俗之衰。鄉閭先生村夫子。為ニ壽大師之類一。自
驕自高。徒釣名機利。而不レ耻者何限。暖昧需々。強レ短屈レ

(九一) 長而折ニ秀才一。拘レ學師悖。引レ繩排レ根。以誤ニ後世一。
其教レ人也。嘗一之子若。如ニ長澤高谷三子一。猶為レ有レ徒。

其在ニ儒林一且然。躬行貪暴。何必尤ニ瞽僧一。保己之躬行文
雅。不レ啻ニ瞽僧一。海内儒士將レ辟ニ三舍一。幡言蟬丸其操

(九二) 可ニ始匹一。而保己有ニ管神之博一。偉矣哉